

Well, a typical American will become impatient if you don't get to the conclusion very quickly.

典型的なアメリカ人はいらいらしてきますね、すぐに結論にいてくれないと。

a typical American will ... 典型的なアメリカ人は...

配慮表現 「'典型的な'アメリカ人は...」という言い方で、人種をひとくりにした決めつけの表現になることを避けています。特定のグループに対する偏見に敏感なアメリカでの、「言い切りにならない一般論の話し方」のよい例です。

impatient いらいらした状態

慣用表現 im (not) + patient (忍耐強い) という単語のつくりからも分かるように、「我慢しきれず、落ち着かない様子」を意味します。

to get to the conclusion 結論に行く

慣用表現 to get to...で「...に至る」という意味ですので、to get to the conclusion で「結論に行く」、「結論に至る」のような意味になります。

They tend to lose interest, and not stay with your conversation.

だいたい興味を失って、話を追わなくなってしまうことが多いでしょうね。

tend to... ~しがち、~することが多い

配慮表現 一般論として話すときに「アメリカ人はこうだ」と言い切った響きになることを避け、「一般的な傾向」として語っています。上出の a typical American...と同様、偏見に厳しいアメリカ文化での、言葉上での配慮が表れた言い方です。

to stay with someone's conversation 興味を失わずに人の話を聞く

慣用表現 興味を失って気をちらしたりせずに、人の話を「興味を持って聞く」「話をきちんと追う」という意味のきまった表現です。

I can remember as an engineering manager many years ago, if someone came to my desk, I wanted them to state their point very quickly. I wanted to know, "What? Are you going to ask me something? Are you going to tell me something? What's your point in being here? Don't come in and just start to talk," you know.

私も覚えています、ずっと昔、私がエンジニアリング・マネジャーだったとき、もしも誰かが私の机に来たら、私は趣旨をすぐに言って欲しかったですね。「何？何か質問したいのか、何かを伝えたいのか、一体ここに来た趣旨は何なのか？ただ入ってきて、しゃべり始めるな」という感じですね。

I can remember 私も覚えています...

ロジック I can remember ...で直訳的には「私は...を思い出すことができる」という意味ですが、自分の経験からのエピソードを言うときによく使われる「旗印」表現の一つです。

I can remember..., I remember ... と聞こえてきたら、「あ、自分のエピソードを言ってくれるぞ...」という意識をしっかり持って続きを待つことが聞き取りのポイントです。スピーカー自身が体験したエピソードを聞くことで、「impatientになる」とメインポイントで述べられたことが、非常に具体的に、いきいきとしたイメージのレベルで理解できる感覚を味わいながら聞きましょう。

また、エピソードは過去に経験したことを話す場合が多いため、時制が過去形など、過去を示すものになることがほとんどです。現在形で「そういうものだ」という「習慣」、「一般論」として言っているのか、過去形で「過去に起こったある事実」として語っているのか、時制によってメッセージが変わりますので、時制にしっかりと注目して聞き取るようにしましょう。

to state one's point 言いたいことのポイント(核心)を述べる

慣用表現

the point は「ポイント」という日本語表現としても少しずつ定着してきている感がありますが、「伝えたい大事なこと」「そもそもの目的」などの意味で使われます。「一番の狙っている点」という感覚で理解すると意味がつかみやすいかもしれません。

your point in...ing ...することの目的

慣用表現

-ing(～すること)におけるあなたの「一番の狙っている点 目的、意味」。したがって、What's your point in being here. の部分の直訳は「あなたがここにいる、ということの目的、意味は何ですか」になり、「何でここにいるの、何のためにここに来たの？用は何？」といったメッセージになるわけです。

I wanted to know, "...”

ロジック

よく見てみると、このエピソード部分の話の組み立ても、「メインポイント そのサポート」のかたちになっています。I wanted them to state their point very quickly 「趣旨を言ってほしい、って思ったものです」と述べた内容を、I wanted to know 以下で、そのときの自分の気持ちを「セリフ」(” “) のかたちで表現することで、具体的に説明してサポートしています。「セリフ」のかたちで言われることで、「趣旨を言ってほしいって思った」というスピーカーの話が、聞き手に、よりいきいきと、具体的なイメージが湧くかたちで伝わってきますね。

実は英語では、このように、「セリフ」のかたちで、具体的に詳しく説明するサポートの仕方がよく使われます。聞き取りでは、これが意外に曲者で、「セリフ」のかたち(=直接話法)になるために、それまでの部分から急に時制が変わったり、主語や代名詞が誰を指しているかが変わったりしますから、慣れていないと話の筋を見失ってしまうこともあります。セリフ部分に入ったときの、スピーカーの声のトーンや話すテンポの変化なども味わいながら、「セリフ」による詳しい説明の感覚に慣れましょう。